

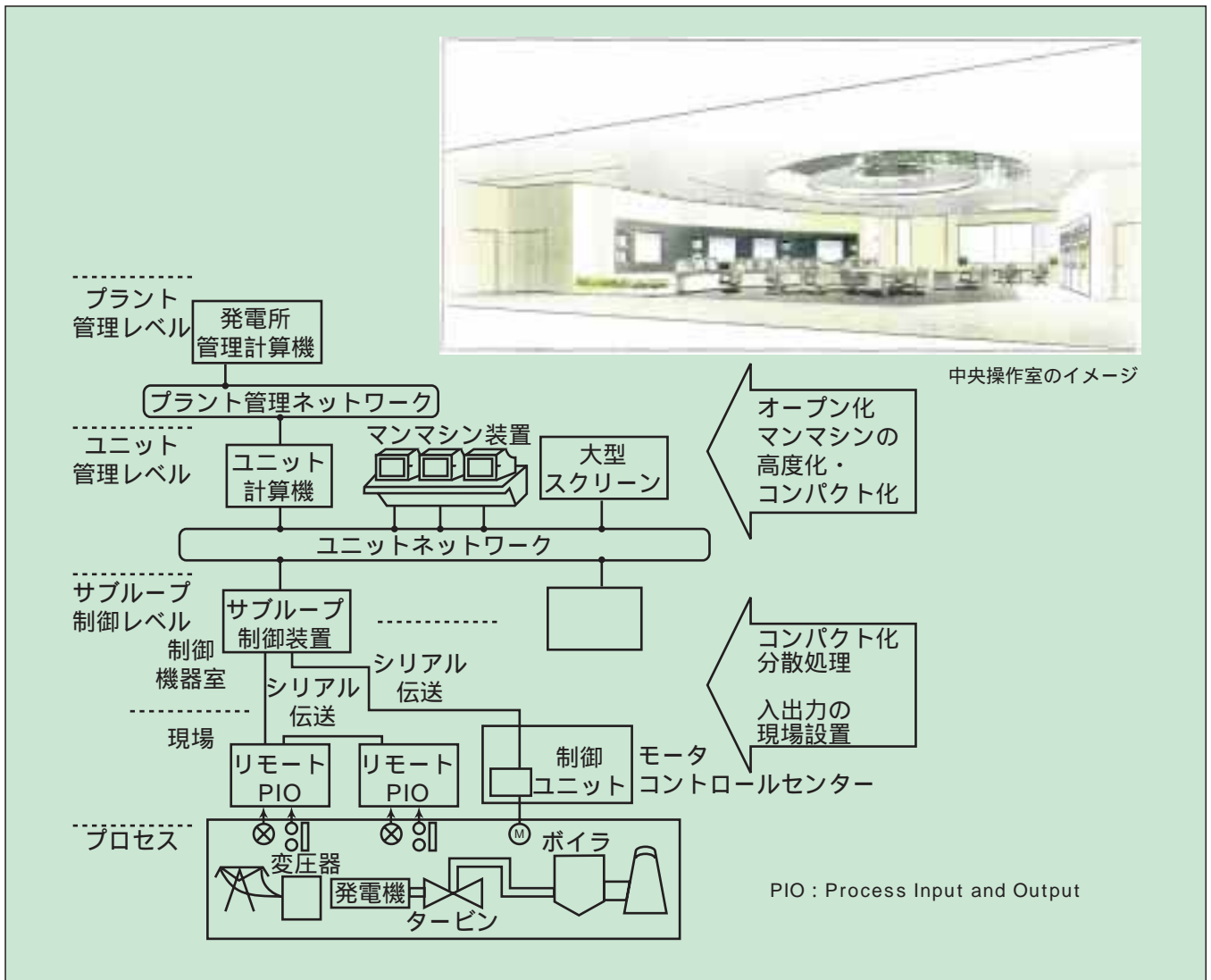
火力発電所における監視制御システムの動向

山田正成*
松野聡之*
船越淳司*

要 旨

事業用の火力発電設備は、電力事業の規制緩和、電力料金見直しに対応して、合理化・簡素化が進められている。三菱電機の火力発電所向け監視制御システムについても最近の技術進歩を反映し、発電所の中核系統として必要な高

信頼性を確保した上での合理化に取り組んでおり、本稿では、監視装置の分散設置、入出力装置の現場設置とシリアル伝送の適用、配開装置との伝送接続を図った新シリーズを紹介する。



火力発電所トータル監視制御システムの技術動向

監視制御システムは、プラント管理レベル、ユニット管理・協調制御レベル、サブグループ制御レベルに階層化し、管理・監視の集中化と制御の分散化を実現している。プラント管理レベルでは情報のオープン化、ユニット管理・協調制御レベルでは分散処理化、コンパクト化、マンマシンの高度化、サブグループ制御レベルではコンパクト化、入出力の現場設置、分散処理を実現している。